

平成17年度 第12回全日本小学校管楽器教育研究大会 第16回東北小学校管楽器教育研究大会(仙台大会)

『**歓管・学楽** かんかん・がくがく Let's enjoy Band!

- 子どもの目が輝く音楽教育を目指して(和と洋のコラボレーション) - 』

第3学年 音楽科学習指導案

期日 平成17年12月2日(金)

会場 仙台市青年文化センター・練習室1

指導者 仙台市立向陽台小学校 教諭 山根 斉

1. 題材名 「いろいろな音のちがいを感じ取ろう」
～ 息が生ま出す新しい音の世界 ～

2. 題材の目標

音色や響きの違いを感じ取って、想像豊かに聴いたり、これを生かして表現したりすることができるようにする。

イメージに合った音を探して、表現の仕方を工夫することができるようにする。

3. 題材について

(1) 題材観

児童はこれまでに鍵盤ハーモニカや打楽器の演奏、身近な素材で音を出す活動を通じて、音色に気をつけて聴いたり表現に生かしたりする学習をしてきている。そこで本題材では、単に叩いて音を出すだけでなく、息を使って音を出す手作り楽器で音を出すことを楽しんだり、その音の特徴を生かして表現したりする活動を設定した。ここでは音を出す方法が異なると同じ楽器でも音色が違ふことや、奏法のちがいによって様々な音が出せることへの驚きを感じ取らせたい。このような活動を通じて、楽器の様々な音色を感じ取って聴いたり、それを表現に生かしたりする力を身につけさせながら、管楽器への関心を深めたいと考えた。

(2) 児童観

低学年から日常的に合唱に取り組んできており、歌うことが好きな児童が多い。リズム遊びや身体表現などにも意欲的に取り組む。低学年での鍵盤ハーモニカに加えて、3学年からはリコーダーを学習しているところである。能力差がはっきりするためか意欲には個人差が見られるものの、演奏を苦手とする児童も、友達が休み時間等にオルガンを弾いているのを聴いたり、一緒に歌ったりしている姿が見られ、全般に音楽への関心が高い。また、本校にはスクールバンドがあり、朝会や学校行事などで管楽器や打楽器を目にする機会も多く、これらの楽器については身近な楽器と感じている児童も多い。

(3) 指導観

本大会のテーマ「**歓管・学楽** Let's enjoy Band!」は、喜んで音楽活動に取り組んだり(歓楽力)や管楽器に触れたり(管学力)することを通して、音楽科の基礎・基本を身に付けさせ、生涯学習の一環と位置づけてアンサンブル活動に親しむことを一生の楽しみにできる児童を育てていきたいというものである。

児童にとって、管楽器はすでに楽器として完成されたものであり、奏法を学んでいくものとして存在している。そのためか、どうしても活動が受身になりがちで、演奏を楽しむことより、「できる・できない」が先にきてしまいがちである。

ところで現在の奏法は、「吹いてみたら面白い音が出た。もっといろいろな音が出せないだろうか。」と、多くの奏者が長い年月を要して楽器に親しみながら、数多くの試行錯誤を通して生み出されたものである。

そこで、先人たちが、あれこれと試しながら奏法を考えていたときのわくわくした気持ちを児童にも追体験させたいと考えた(歓楽力)。このことが中学年の基礎・基本である「進んで音楽にかかわる」態度や習慣を育んでいくことにつながると考える。また、管楽器の音の出る仕組みを実際に体験することで、より楽器に親しみをもつことができるであろう(管学力)。この体験活動により、「音の特徴や音色の違いを感じ取って、想像豊かに聴くことができる」などの鑑賞する力を養ったり、楽器に憧れや興味をもって音楽活動に取り組む意欲をもたせたりできると考える。

4. 教材について

「きょうりゅうとチャチャチャ」 平野祐香里 作詞 加賀清孝 作曲

愉快的恐竜との出会いを児童の発想で歌っている斬新な感覚の歌詞である。楽曲は、A (a a ´) B (b b ´) の二部形式になっており、前半は八分休符やシンコペーションのリズムが効果的に使われていてリズムミカルな曲想である。後半に手拍子が入る部分があり、歌う楽しさを一層高めている。教科書ではこの手拍子のリズムを工夫する展開になっているが、この部分に児童が考えた恐竜の歌声を挿入することで、恐竜との出会いという愉快で不思議な歌の世界のイメージをさらに広げていきたいと考える。

また、児童が考えた恐竜の歌声に類似した方法で音を出す金管楽器を使って恐竜の歌声を演奏することによって、児童のつくり出した音が金管楽器の発音原理とおなじであることを感じ取らせるようにしたい。

「トランペット吹きの休日」(トランペット) アンダーソン 作曲

軽快なテンポで3本のトランペットが活躍し、トランペット独特のシャープな音色や三つの音が重なり合った響きを感じ取ることができる曲である。

「バイエルンポルカ」(トロンボーン) ローマン 作曲

太くて朗々としたトロンボーンの音色を味わえるとともに、スライドを生かしたグリッサンド奏法が多く用いられており、トロンボーンの奏法の特徴に関心をもたせることができる曲である。

「狩人の合唱」(ホルン) ウエーバー 作曲

数ある楽曲の中でもホルンの音色が最も印象的に用いられており、狩の角笛から発展したホルンの成立とも絡めて鑑賞できる曲である。

5. 題材の評価規準

	ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ 音楽的な 感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材 の 評 価 規 準	音の特徴に関心をもって、進んで聴いたり表現したりしようとしている。	音色や響きの違いを感じ取って、自分の発想に合った音の出し方や組み合わせ方を工夫している。	いろいろな楽器や身の回りの物から出る音の特徴や音色の違いを感じ取り、自分の思いを生かした表現をすることができる。	楽器の音色の違いや美しさを感じ取りながら聴くことができる。
学 習 活 動 に お け る 具 体 の 規 準	歌詞のおもしろさやリズムの特徴など、曲の感じをつかんで、進んで歌おうとしている。 管の素材や長さ、形の違いによって生まれる音色や響きを進んで聴こうとしている。 友達と協力して、意欲的に表現しようとしている。	音色や響きの違いを工夫して、自分の考える恐竜のイメージに合った歌声を表現しようとしている。 友達が工夫した恐竜の歌声の良さを感じ取り、自分の表現に生かそうとしている。	曲の感じに合わせて表情豊かに歌ったり、拍の流れに合わせて恐竜の歌声を演奏したりできる。 管の素材や長さ、形の特徴を生かしたり、音の出し方を工夫したりして自分の考える恐竜の歌声を表現することができる。	金管楽器の音色の違いを感じ取って聴いている。 楽器を演奏している様子などを想像して金管楽器の音色を味わいながら聴くことができる。

6. 指導と評価の計画（7時間扱い）

時	主な学習活動	具体的 評価規準	歓楽力（ ） 管学力（ ）	評価方法
1	「きょうりゅうとチャチャチャ」を歌詞の様子や曲の感じをつかんで楽しく歌う。	ア-	息の流れによって音が作り出されることに気づき、出てくる音の響きを楽しむ。金管楽器の発音の仕組み（「バズィング」）を体験を通じて知る。	活動の観察
2	バズィングを利用した音をもとに、自分が考える恐竜の歌声に合った音の出し方を探す。	ア-		活動の観察及び学習カード
3	各自が工夫した恐竜の歌声と歌唱を組み合わせて楽しく歌う。	イ- ア-	息の入れ方を工夫し音を変化させながら、音の響きを楽しむ。 息の入れ方やタンギングなど音の出し方を工夫したり、管の形状や長さを変えたりすることで様々な表現ができることを理解する。	発言や表情の観察
4	新しい音の素材を使って恐竜の歌声をさらに工夫して楽しく表現する。（本時）	イ- イ-		練習の様子の観察 発言や活動の観察
5	拍の流れに合わせて恐竜の歌声を組み合わせて表現する。	ウ- ウ-		演奏の様子の観察 学習カード
6	ホルンやトロンボーン、トランペットの音色の違いに気づく。	エ-	金管楽器の音色の特徴を感じ取り、管楽器への興味関心をもつ。 金管楽器は発音の仕組みは同じでも、形や大きさによって音色や音域に違いがあることを理解する。	活動の観察及び鑑賞カード
7	金管楽器の音色の美しさを味わう。	エ-		活動の観察及び鑑賞カード

7. 本時の指導（4 / 7）

(1) 本時の目標

音の素材を探したり音の出しを工夫したりして、自分の考えた恐竜の歌声を想像豊かに表現する。

(2) 研究の視点との関連

研究の視点1

身近な物を叩いたり擦ったり弾いたりする打楽器的な奏法で音が出ることは多くの児童が体験的に知っている。音の出る仕組みはそれだけでなく、息の流れを使うことでも様々な音を作り出すことができることは、児童にとって新しい発見であり大きな驚きであるとする。児童に音づくりを通して、管楽器の発音原理を体験的に楽しく理解（管学力）できるようにすれば、児童にとって、管楽器がより身近に感じられるとともに、より一層親しみをもつこと（歓楽力）ができるのではないかと考える。

研究の視点2

本時では金管楽器の発音原理を用いて児童が作成した恐竜の歌声を歌の中に取り入れながら表現活動に生き生きと取り組ませるとともに、三種類の金管楽器の音を、それぞれの音色に留意させながら聴かせるという展開での指導過程を考えた。

また本物の金管楽器の音色を聴かせる段階では、生涯学習の観点からゲストティーチャーを活用しより一層興味・関心を高めたいと考えた。

(3) 学習過程

主な学習活動 ・ 予想される反応	指導者のかかわり 評価
1 既習曲を歌う。 2 学習課題を知る。	「きょうりゅうとチャチャチャ」を全員で歌う。何名かの児童に恐竜の歌声を入れさせる。
きょうりゅうが しているときの歌声を工夫して楽しく歌おう。	
3 自分の考える恐竜の歌声にふさわしいものになるよう素材を選び音の出し方を工夫する。 【準備する音の素材】 <ul style="list-style-type: none"> ・ カラーコーン ・ ジョーロ (ジョーロの先) ・ まっすぐな塩ビ管 ・ まっすぐなステンレス管 ・ 折れ曲がった塩ビ管 ・ 伸び縮みする塩ビ管 ・ ガス管 ・ じょうご 【予想される恐竜の歌声】 <ul style="list-style-type: none"> ・ お父さん恐竜が陽気に酔っばらっているときの歌声 ・ お母さん恐竜が楽しくお料理をしているときの歌声 ・ 赤ちゃん恐竜がおっぱいをほしがっているときの歌声 	音の素材は会場のカーテンの裏に準備しておき、課題をつかませた後で提示する。 自分のイメージに合った歌声を一人一人が工夫できるように左記の音の素材は複数用意する。 伴奏を流しておき、拍の流れに乗って恐竜の歌声を入れて歌えるようにしておく。 イ - 練習の様子の観察 : 音色や響きの違いを工夫して、自分の考える恐竜のイメージに合った歌声を表現しようとしている。 C : 素材の形の違いや音の出し方を工夫して表現できない。児童の表現したいイメージを確認し、それに適した素材の選び方や音の出し方を助言して練習に取り組ませる。 A : リズムや音の高低・大小の変化をより明確に表現できるように意識させる。 : 息の入れ方を工夫し音を変化させながら、音の響きを楽しむ。
4 各自が工夫した恐竜の歌声を発表する。 【予想される表現の工夫】 <ul style="list-style-type: none"> ・ おっぱいをほしがる赤ちゃん恐竜 (短い管で、小さな高い音を出す表現・トランペット型) ・ お料理をするお母さん恐竜 (丸めた管で、高い音を出したりタンギングを使ったりする表現・ホルン型) ・ 酔ったお父さん恐竜 (管を伸び縮みさせて音程を変えた表現・トロンボーン型) 【発表を聴く観点】 まっすぐな形のものや丸めた形のもの、形の小さいものと大きいものなど形状の違いで生まれる音の響きの違いを聴く。管の伸び縮みや息の入れ方、タンギングなど、音の出し方の工夫による響きの違いを聴く。	表現を工夫していた児童を指名し、全員の歌唱に合わせて発表させる。 タンギングや息の入れ方を工夫した表現や、トランペット、ホルン、トロンボーンの特徴につながっていく表現をしている児童の表現を中心に上げる。 イ - 発言や活動の観察 : 友達が工夫した恐竜の歌声の良さを感じ取り、自分の表現に生かそうとしている。 C : 音のおもしろさだけに興味をもっている。形状や管の長さの変化などに着目させる。 A : 形状による響きの違い、管の長さや音程の違いや既存の金管楽器との関連を意識させる。 : 息の入れ方やタンギングなど音の出し方を工夫したり、管の形状や長さを変えたりすることで様々な表現ができることを理解する。
5 自分たちの手づくり楽器を発展させた金管楽器の音を聴く。	児童が体験した手づくり楽器と関連させて金管楽器 (トランペット、ホルン、トロンボーン) を紹介する。ゲストティーチャーの演奏を聴かせる。(ホルン)

